

一般委員會ノ次回期日ハ一ヶ月ノ豫告期間ヲ以テ幹部會之ヲ決定スヘシ

一般委員會ハ一九三二年九月十九日ヲ以テ始マル週中ニ會合スヘキ幹部會ノ事業再開後四月ヨリ遅カラサル時期ニ開催セラルヘシ

第四、一般規定

本決議ハ軍備縮少ノ一層廣汎ナル措置ニ付又ハ各代表部ニ依リ提出セラレタル政治的提案ニ付何等會議ノ態度ヲ豫斷スルモノニ非ス

第五、軍備休日

一般委員會ノ再開ニ至ル迄及其ノ事業ノ第二期中如何ナル國ト雖モ一般軍備縮少條約ノ準備ヲ妨クルカ如キ措置ヲ開始セサルヘキコトヲ確保スル爲會議ハ一九三一年九月二十九日ノ聯盟總會ノ決議ニ依リ定メラレタル軍備休日ヲ一九三二年十一月一日ヨリ四月間更ニ延長センコトヲ各國政府ニ勸告スルコトヲ決議ス

第二編 各 論

第一章 政治問題(精神的軍縮問題)

目次

第二編 各 論	一四〇
第一章 政治問題(精神的軍縮問題)	一四五
第一節 政治委員會	一四五
一、構成	一四五
二、議事回数	一四五
三、議題	一四五
四、分科會ノ設置	一四六
五、議事經過	一四六
第二節 精神的軍縮問題	一四七
第一項 精神的軍縮問題ノ上提經緯及各國提案	一四七
一、昭和六年九月二十三日波蘭覺書 (Conf. D. 16)	一四七
二、軍縮本會議	一四七
三、波蘭提案 (一九三二年二月十三日) (Conf. D. 76)	一四七
四、新聞ニ關スル波蘭提案 (Conf. D./C.P./2)	一四九
五、波蘭提出條約案 (Conf. D./C.P./3)	一四九

六、中國提案 (Conf. D./88) 及覺書 (Conf. D./111)	一五〇
七、洪牙利宣言案 (Conf. D./C.D.M.18)	一五〇
八、教育ニ關スル英國提案 (Conf. D./C.D.M./12)	一五一
九、右ニ關スル支那修正案 (Conf. D./C.D.M./16)	一五一
一〇、教育ニ關スル「ウルグアイ」提案 (Conf. D./C.D.M./13)	一五一
一一、武術的玩具ニ關スル「ユニカ」提案 (Conf. D./C.D.M./22)	一五一
一二、英米宣言案 (Conf. D./C.D.M./23)	一五一
第二項 精神的軍縮分科會議事經過	一五三
第一、精神的軍縮分科會	一五三
一、構 成	一五三
二、議 事 回 數	一五三
三、議 題	一五三
四、小分科會ノ設置	一五四
第二、主ナル主義上ノ相違	一五四
一、精神的軍縮ト物質的軍縮トノ關係	一五四
二、積極的規定設定主義ト消極的規定設定主義	一五五
三、取締主義ト個人自由尊重主義	一五五
五、中央集權國ト然ラサル國	一五五
六、將來取極メラルヘキ約定ノ性質及形式ノ問題	一五五

第三、教 育 問 題	一五五
一、討 議 一 般	一五五
二、小分科會報告約定案逐條審議	一五六
三、英米宣言案	一六九
四、小分科會ニ新起草案回附	一七〇
第四、新聞 問題	一七〇
一、沿 革	一七〇
二、精神的軍縮分科會ニ於ケル新聞問題	一七一
第五、法 制 問 題	一七一
第六、精神的軍縮分科會報告書提出 (Conf. D./138) (C.D.M./24)	一七二

第一章 政治問題 (精神的軍縮問題)

二月二十五日一般委員會ノ決議ニ依リ政治問題審議ノ爲政治委員會ヲ設置スルニ決セルコト前述ノ通りナリ (第一編第二章第四節參照)

第一節

一、政治委員會ノ構成

政治委員會ニハ參加國全部ノ代表者出席スルコトナリ (代表者名ニ付テハ Conf. D/C.P. I) タルカ由來本委員會ヲ特ニ設置セル點ニツキ佛國側等ニ於テ一般委員會以外ニ保障問題等ヲ議スル特殊委員會ヲ設ケ自己ニ有利ナル議長等ヲ選任セントスルノ計畫アリト傳ヘラレ居タルモ結果米國委員ノ提議ニ依リ議長副議長及報告者ハ一般委員會ト同シク「ヘンダーソン」「ポリチス」(希) 及「ベネシュ」(「チエッコ」) 三氏ニ撰任スルコトニ決セリ

二、議事回数

政治委員會ハ本會期中ニ於テハ二月二十七日午後及三月十五日午後ノ二回開催セラレタルニ過キス

三、議題

一般委員會ニ於テ決定セラレタル政治委員會ノ假議題左ノ通 (Conf. D/103)

一、軍縮條約案第一條A政治的條項三精神の軍縮表題ノ下ノ事項

二、同條約第六編一般規定ニ關スル提案

三、A章(常設軍縮委員會)ニ關スル提案

四―一三、軍縮條約案第四十條乃至第四十九條

常設軍縮委員會ノ權限ニ關スル附加規定

一四、(イ) 監督

一五、(ロ) 軍縮事業ノ階梯準備ニ關スル提案

一六、第五十條

一七、C章(申告手續)ニ關スル提案

一八一—一九、第五十一條第五十二條

二〇—二二、第五十四條乃至第五十六條ニ關スル提案

政治委員會ハ前記議題中先ツ精神軍縮問題ヲ議スルコトニ決定セリ(第二回會合三月十五日)

四、分科會ノ設置

政治委員會ハ右精神軍縮問題審議ノ爲二十ヶ國代表ヨリ成ル分科會ヲ設置シ(第二回會合三月十五日)分科會ハ更ニ四個ノ小分科會ヲ設置セリ(後述)

五、議事經過

政治委員會第一回會合(二月二十七日午前)ニハ議長、副議長及報告者ヲ選任スルニ止マリ三月十五日第二回會合ニ於テ始メテ議題ノ審議ニ入り前述ノ如ク先ツ精神の軍縮問題ヲ討議スルニ決定セル處先ツ波蘭委員ヨリ精神の軍縮ニ關スル同國提案(Conf. D./16—D./76)ニ付説明シ蘇國委員ハ右提案ノ趣旨ニ何等反對スヘキモノナシト雖モ精神の軍縮ナルモノハ物質の軍縮ノ結果當然生シ來ルヘキモノニシテ吾人ハ後者ニ全力ヲ傾注セサルヘカラス一九二三年ノ「モスコウ」軍縮會議ノ際提案セラレタル地方の軍縮ハ否決セラレ精神の軍縮ノ對案現ハレタル先例ニモ鑑ミ會議ハ二次的問題ノ審議ニ依リ主タル目的ヨリ遠サカル處アリテ甚タ危險ナリト主張セルモ議長ハ分科會ノ設置ハ物質の軍縮事業ヲ阻害スルモノトハ思ハレスト應酬シ票決ノ結果分科會設定セラレタリ

第二節 精神の軍縮問題

第一項 精神の軍縮問題上程ノ経緯及各國提案

一、一九三一年九月二十三日波蘭政府ハ聯盟事務總長宛精神の軍縮ニ關スル覺書(Conf. D. 16)ヲ提出シ軍縮會議參加國ニ送達センコトヲ依頼セルカ其要旨ハ軍縮會議ノ成功ヲ期センカ爲ニハ國際關係ヲ害スルカ如キ反平和運動ニ對シ各國一致ノ行動ヲトル必要アルヘク就中(一)國內法制改正(二)新聞取締(三)教育(四)放送演劇映畫等ニ關シテ緊急適當ナル協定ヲ結フノ必要アルヲ力說シ會議參加國ニ對シ本事業ノ可能性及重要性ニツキ注意ヲ喚起スルト共ニ實際的效果ヲ收メンカ爲協力ヲ求ムト云フニアリ

二、軍縮本會議ニ於ケル一般討議ニ於テハ波蘭(第六回會合)西班牙(第八回會合)波斯(第十一回會合)羅馬尼(第十二回會合)各代表何レモ軍縮事業ヲ促進シ世界平和ヲ確保スル爲メ精神の軍縮ノ必要ナルヲ說ケリ

三、波蘭代表ハ軍縮會議開會後(二月十三日)左記ノ提案ヲナセリ(Conf. D./76)

精神の軍縮ノ漸進的實現ニ關スル提案

一九三一年九月十七日ノ覺書(Conf. D./16)ニ關シ波蘭政府ハ國家機關ニヨリ監督セラルル公共生活ノ凡ユル領域ニ於テ精神の軍縮ノ實現ヲ絶對ニ必要ナリト確信シ且ツ各國相互信頼ノ雰圍氣ヲ醸成スルコトニヨリ本軍縮會議ノ事業ヲ容易ナラシメンコトヲ希望シ本會議カ即時左記提案ヲ考慮センコトヲ提議ス

一、國法上ニ於ケル改革

現行各國法制ハ國際關係ノ變遷ニ伴フ新規必要事項ヲ考慮シ居ラスシテ單ニ自國ノ利益ヲ擁護スルコトニノミ限定セラレ居ルカ故ニ波蘭政府ハ各國國法ヲ國際生活發展ノ現勢ニ順應セシムルコトノ研究ニ入ランコトヲ提案ス

右研究ハ各國民間ノ善隣關係ニ反シ世界平和ノ爲ニ危險ナル各種ノ行爲例ヘハ戰爭熱ノ煽動國家ヲ驅リテ國際法ヲ違反セシムルカ如キ宣傳、國際關係ヲ惡化スルニ至ルヘキ虚偽、不正ノ報道、或ハ文書ヲ撒布スルカ如キ行爲ヲ定義スルヲ

目的トス

スル研究ノ結果ニ依リ各國法制上ニ前記ノ如ク定義セラレタル行動ヲ禁壓スヘキ最初ノ國際條約ノ締結ヲ可能ナラシムヘシ

二、新聞

新聞及定期刊行物ハ輿論ノ趨勢ヲ決定シ從テ國際生活上ニ著大ノ影響ヲ與フルモノナルニ鑑ミ波蘭政府ハ新聞ニ於ケル精神の軍縮ノ思想ヲ實現スル爲採ルヘキ措置ヲ研究スル目的ヲ以テ新聞及出版業組合ノ有力代表者ノ會議ヲ成ルヘク速ニ召集スルコトヲ提議ス尙此ノ會議ニ於テ一九三二年九月十七日ノ覺書中ニ記載セラレタル具體的提案ニ就テ討議スルコトヲ得ヘシ

右會議ノ結果ハ各國政府及新聞同業組合ノ協同的行動ノ基礎ヲナシ得ルモノナリトス

三、教育

世界平和ノ將來ハ青少年ニ對スル薰化ノ精神如何ニ關係スルモノニシテ若シ此等青年ヲシテ平和ヲ以テ最高目標ト認メシムルニ非サレハ國際社會ヲ組織セントスル凡テノ努力ハ無益トナルヘキカ故ニ波蘭政府ハ既ニ採擇セラレタル勸告ト提議トヲ國際的約定ニヨリ漸進的ニ實現セントコトヲ提議ス尙此見地ヨリ學校教科書ヲ全般のニ改訂スルノ適切ナルコト凡ユル程度ノ教育機關ニ於テ國際聯盟國際協力及他國民ノ生活ニ關スル教育ヲ施スコト及各國學生及教職員ノ接近ヲ獎勵スルノ緊要ナルコトニ就キ注意ヲ喚起セントス

四、「ラジオ」放送、活動寫眞、演劇

國際輿論ハ凡テノ思想表現例ヘハ「ラジオ」放送、活動寫眞、演劇等ニ依リ影響ヲ受クルモノナルニ鑑ミ波蘭政府ハ右ノ如キ範圍内ニ於テ各國國民間ノ善良ナル諒解ヲ危險ナラシムルカ如キ弊害ヲ防止スルノ措置ヲ採ランコトヲ提議ス波蘭政府ハ「ラジオ」放送ニ關シテ一般的條約ヲ締結スルノ得策ナルヲ認ム國際關係ニ關スル「ラジオ」放送「ブログ

ラム」ハ一般ニ政府及公共情報機關ニ留保セラルルモノナルヲ以テ各國政府間ニ於テ此權利ノ行使ニ際シ精神の軍縮ノ原則ニ從フコトヲ約束スルニ於テハ此方面ニ於テ精神の軍縮ニ貢獻スルトコロ大ナルヘシ

活動「フィルム」及演劇脚本ハ一般ニ官憲ノ檢閲ヲ經ルモノナルニ鑑ミ波蘭政府ハ各國政府カ國際關係ヲ惡化スルノ虞アル映寫及演劇ヲ禁止シ又一方例ヘハ免稅等ノ方法ニヨリ平和的宣傳トナルヘキ映寫及演劇ニ便宜ヲ供スルコトノ約束ヲ爲サンコトヲ提唱ス

五、

各國政府相互ノ關係ニ於テ精神の軍縮ノ根本觀念ヲ尊重セサルニ於テハ各種私的活動ニ對シテ政府ノ執ルヘキ態度ニ關シ上記ノ趣旨ヲ實現スルモ其ノ價值ナキコト勿論ナルヘク從テ本提案ノ目的トスル事業ハ若シ各國ノ國際政策カ精神の軍縮ノ爲ニ拂ハルル努力ト一致スルニ非レハ完全ナルモノト云フヘカラス

手續

波蘭政府ハ精神の軍縮ノ問題ヲ一般委員會ニ回附センコトヲ提議ス右委員會ハ恐ラクハ分科會ヲ設置シ條約ヲ起草セシムルコトトスヘシ

四、新聞ニ關スル波蘭提案 (Conf. D./C.P. 2) (三月十五日)

波蘭代表ハ更ニ新聞記者團體ノ國際會議ヲ招集シ

(一) 新聞ニ關係アル精神の軍縮問題ヲ審查シ

(二) 新聞ノ精神の軍縮事業ニ關シ政府ノ取ルヲ適當トスヘキ補充的行動ニ關スル勸告ヲ爲ナシムル趣旨ノ提議ヲナセリ

五、波蘭提出條約案 (Conf. D./C.P. 3) (三月十五日)

波蘭代表ハ(イ)戰爭煽動國際法違反行爲ノ處罰(ロ)右行動ニ出ツル團體ノ禁止(ハ)教科書改正(ニ)「ラジオ」放

送(ホ)活動寫眞ニ關スル原則の規定ヲ設クル條約案ヲ提出セリ

六、中國委員ハ(イ)左記提案(Conf. D./88)(二月十九日)及(ロ)之ニ對スル覺書(Conf. D./111)(四月十三日)ヲ提出セリ

(イ)市民ヲシテ戰爭の職業ニ從事セシムルコトヲ獎勵シ好戰の精神ヲ涵養セシムルカ如キ現存制度及手段ハ軍閥主義ノ發生ニ資スルモノナルカ故ニ之ヲ廢止スルヲ要ス

(ロ)右中國提案ハ精神の軍縮ニ關スルモノナリ歐洲大戰ハ戰爭ノ脅威ヲ痛感セシメタルヲ以テ各國平和團體及政府ハ世界平和唯一ノ保障タル世界の軍縮ノ實現ニ努力シツツアルモ一層根本のナル精神の道德の軍縮ヲ怠リ各國政府トモ今尙國家主義ヲ鼓吹シ好戰氣分ヲ養ヒツツアリ支那全權ハ波蘭提案ト全然同感ニシテ之カ爲ニ特別分科會ノ設置サレタルヲ欣フト共ニ全世界ヲ通シ精神の軍縮ヲ實現スヘキ實際の方策ノ達成サレンコトヲ希望ス

七、洪牙利宣言案(C.D.M./8)

洪國委員ハ左ノ提案ヲナセリ(四月十八日)

軍縮會議ハ參加國ニ對シ如何ナル程度迄攻撃的戰爭ノ煽動カ國內法制ニヨリ處罰シ得ヘキ犯罪行為ヲ構成スルヤニ付考慮スヘキヲ勸告シ國際新聞協會カ戰爭煽動ノ禁止問題ヲ研究シ且不正記事防止ノ爲メ必要ナル手段ヲ採ラムコトヲ希望シ

特別協定ニ依リ不正記事ノ被害國ニ抗議及訂正ヲ要求スルノ權利ヲ與ヘンコトヲ望ミ

學校教科書及口頭教授ニヨリ他國ニ對スル憎惡輕侮又ハ戰爭ヲ挑發スルノ虞ナキコトヲ希望シ

適當ナル團體ノ組織ニヨリ各國教職員及學生間ノ友好的關係ヲ維持シ他國文化ノ理解ニ出來得ル限りノ便宜ヲ供與スヘキヲ希望シ今日尙各國間ニ異論アル問題ノ陳述ニ當リ寛大ナル態度ヲトリ各國智識階級ノ間ニ相互理解ニ達スルノ道ヲ開クヘキヲ希望ス

八、教育ニ關スル英國提案(C.D.M./12)(四月二十六日)

英國提案概要

(一)初等教育

(a)初等教育ニ於テ國際的理解ノ増進ヲ目的トスル授業ヲナスヘキコト

(b)基礎的經濟學ト歴史及地理ノ教授トヲ相關聯セシメ右三課目ニヨリ兒童ヲシテ自國及他國カ世界ノ文化的物質的富力ニ貢獻シ各國相依存セルヲ學ハシムヘキコト

(c)政府又ハ教育協會ヲシテ各國ノ工業職業及風景ヲ示スヘキ政治的宣傳ニ非サル「ボスター」ノ交換ヲ求ムルコト

(二)兵役年齡ニ達セサル青少年ニ對シ軍事教練ヲナスヘカラサルコト

九、中國委員ハ前記英國提案ニ對シ左ノ修正案ヲ提出セリ(C.D.M./16)(五月十四日)

第一項(b)ニ次ノ項ヲ加フルコト

歴史及地理教科書ヨリ他國ニ關スル不正又ハ誇大ノ言辭ヲ除去スヘキモ國際關係ノ真相及之カ原因ヲナス困難ニシテ之カ除去カ眞ノ國際的理解ニ必須ナルモノニ付テハ忠實且公平ニ各國青年ニ教育シ彼等ヲシテ世界ノ真相ヲ理解セシムヘシ

一〇、教育ニ關スル「ウルグアイ」國提案(Conf. D./C.D.M./13)(五月六日)

「ウルグアイ」委員ハ左ノ提案ヲナセリ

教育就中初等及中等教育ニ於テハ左記ノ手段ニヨリ青少年ノ國際意識涵養ヲ考慮スヘシ

(一)人文及政治地理並各國進歩ノ狀況及相互關係等ニ關スル智識ノ増進

(二)文化及技術カ如何ニシテ各國相互ノ接觸ニ依ル文明ノ進歩ヲ決定スルヤヲ示スノ目的ヲ以テ歴史(現代史ヲ含

ム)ヲ教授スル

(三) 以上ノ課目ニ於テハ好戰氣分ヲ煽ルカ如キ戰爭征服ニ關スル事項ニ重キヲ置カス各國ノ團結、正義及協想ニ基ク人類ノ進歩ヲ示スカ如キ事項ヲ重要視スルコト

一、武的玩具禁止ニ關スル「ドミニカ」提案 (Conf. D./C.D.M./225) (七月十五日)

「ドミニカ」委員ハ左ノ趣旨ノ提案ヲナセリ

國際聯盟ハ世界青少年ノ間ニ平和友情及國際協力ノ理想ヲ擴布スルヲ希望シ此ノ目的ノ青少年ニ直接影響アルヘキ措置ヲトルコトハ人類將來ノ爲最モ重要ナルコトナルニ鑑ミ軍縮會議ハ參加各國ニ對シ武的玩具ノ製造禁止ヲ勸告スヘシ

尙本件ノ實行ヲ容易ナラシメ且ツ製造販賣業者ニ損害ヲ被ラシメサル目的ヲ以テ右勸告ハ一九三五年ヨリ始メテ之ヲ實施スルコトノ提案ヲナセリ

二、英米宣言案 (Conf. D./C.D.M./23) (七月二十三日)

軍縮會議第一期討議終了近ツケルモ未タ具體的結果ニ達セサルヲ遺憾トセル英米代表者ハ軍縮條約ニ添付セラルヘキ左記ノ宣言案ヲ提出シ之ヲ速ニ議決センコトヲ求メタリ

締約國ハ

軍備ノ縮少及制限ハ國家相互ノ信頼増進ノ程度ニ依ルコト多キニ鑑ミ

右ノ如キ信頼ニ由リ生スル安全ノ念ハ政府現下ノ政策ノミナラス歴史ノ國際的了解及人民自身ノ思想ニ依ルモノナルニ鑑ミ世界ノ現狀ハ國際的接觸ノ益々頻繁ナルコトヲ必要トシ且ツ世界平和確立、若ハ危害ノ機會ハ此ノ接觸ニ正比例シテ増加シ來ルモノナルコト竝ニ諸國ノ連帶ハ國際協力ヲ是非共必要ナラシムルコトニ鑑ミ

自國法制ノ範圍内ニ於テ使用シ得ヘキ一切ノ教育方法ニ依リ殊ニ教育機關ノ活動教員ノ養成、青少年ノ教育ニ依リ國民間ノ融和及相互の尊敬ヲ増進スルコト

自國法制ノ範圍内ニ於テ活動寫眞、劇、及「ラヂオ」放送ガ相互的了解ニ對シ爲シ得ル貢獻ヲ援助スルコト竝ニ之カ爲智識階級ノ協力ヲ求ムルコト

教育當局者ニ對シ國際紛争平和的處理竝ニ國策ノ具トシテノ戰爭ノ拋棄ノ原則及適用ノ研究ヲ從憑スルコトヲ約ス右目的の遂行ノ爲各國ノ學藝協力委員會ハ毎年學藝協力委員會ニ對シ本「プロトコール」ヨリ發生スル義務履行ノ爲メ爲サレタル措置ニ付キ報告書ヲ提出スヘシ

締約國ハ前記諸原則ノ適用ニ付テハ添付「プロトコール」案ニ定ムル方針ニ依ランコトヲ從憑ス

本決定ハ將來提出セラルヘキ一層廣キ提議ヲ何等妨クルモノニアラス

第二項 精神的軍縮分科會議事經過

第一、精神的軍縮分科會

一、構成

精神的軍縮分科會ハ前述ノ通り政治委員會第二回會議ニ依リ設置セラレ引續キ其ノ第一回會議開催セラレタルガ同分科會ノ構成左ノ通 (右構成ハ政治委員會議長ノ指名ニ依ルモノニシテ大國ノ外主トシテ利害對立スル國ノ代表者ヲ含ム) 獨、白、「ボリヴィア」、英、「ブルガリヤ」、「カナダ」、支、埃及、西、米、佛、洪、伊、日、波蘭、「ルーマニヤ」、瑞西、「ユーゴスラヴィヤ」及新聞會議招集國タル丁抹(諸威ノ提議ニ依ル)二十一ヶ國議長トシテ「ペリエ」(瑞西)報告者トシテ「スツムラコウスキー」(波蘭)ヲ選任シタリ

二、議事回数

精神的軍縮分科會ハ三月十五日ヨリ七月二十日迄ノ間十五回開カレタリ

三、議題

本分科會議題ハ波蘭提案ノ如ク法制、教育、新聞ノ三部門ニ大分シ得ヘキ處之カ討議順序ニ付キ異論アリ我方ハ(イ)

新聞(ロ)教育(ハ)法制ノ順序ヲ提議セルモ結局三月十六日第二回會議ニ於テ議長ノ提議ニ依リ議長、波、白、英、洪委員ヨリ成ル小分科會ヲ設ケ議題ヲ決定セシムルコトナレリ

議題小分科會ハ四月十四日、十六日、二十日、二十三日ノ五回ニ互リ審議ノ上四月二十五日第三回分科會ニ於テ報告者ヨリ小分科會決定ノ議題案(Conf. D/C.D.M./9)ヲ披露シ之ニツキ討議ノ結果大體原案ヲ認メ

(イ)(a)教育(b)映畫(c)演劇(d)放送(ロ)新聞(ハ)國內法制ノ順序ニテ審議スルコトナレリ
四、小分科會ノ設置

前記議題小分科會ノ外

(一) 教育小分科會(四月二十七日分科會第四回會議ニ於テ設置)

瑞(議長)波(報告書)「ウルグアイ」、白、英、米、洪、「ユーゴースラヴィア」各國委員

(二) 新聞小分科會(第六回分科會會議六月四日設置)

瑞(議長)波(報告者)白、丁、「ユーゴースラヴィア」

(三) 法制小分科會(同上)

瑞(議長)波(報告者)羅、葡、伊、英

後ニ佛、獨、西國委員之ニ加ハリ又第二讀會案起草ノ爲蘇國委員ヲ加ヘタリ

尙新聞法制ノ問題ハ密接ナル關係アルヘキニ鑑ミ兩小分科會ノ混合分科會ヲ開キ得ルコトセリ

第二、主ナル主義上ノ相違

精神の軍縮問題討議ノ際屢々主義ノ對立ヲ見タルカ其ノ主要ナルモノヲ略述セハ左ノ如シ

一、精神の軍縮ト物質の軍縮トノ關係

精神の軍縮ハ世界平和確立上重大ナル要素ニシテ或ル程度ニ於テ物質の軍縮ノ前提ナルコトハ一般の見解ナルニ反シ、

蘇國委員ハ精神の軍縮ヲ以テ物質の軍縮達成ニ依リ生スヘキ自然ノ結果トナシ前者ヲ先ニ議スルコトハ主從ヲ顛倒セルモノナリト主張シ又獨逸委員ハ精神の軍縮カ國際融和物質の軍縮ノ必然的前提ナリト斷定スルハ誤レリト主張セリ

二、積極の規定設定主義ト消極の規定設定主義

日本委員ハ精神の軍縮實現ノ爲先ツ國際的和親ヲ害スル行動言論ヲ防遏矯正スルヲ以テ急務トシ所謂消極の方面ニ全力ヲ傾注スヘシト主張セルニ反シ今般審議セラレタル約定案ハ國際和親促進ヲ主眼スヘク専ラ積極の規定ヲ設クル旨ノ主張アリ(西、白、英、米、支)

三、取締主義ト個人自由尊重主義

前述ノ見解ニ關聯シ個人ノ自由尊重ヲ高唱シ取締檢閲等ヲ全然排除セントスル傾向アリタルカ(白、西)之ニ對シ或ル程度迄政府ニ平和ヲ害スル言動ヲ取締ル權限ヲ認ムヘシトナスモノアリ(葡)又檢閲ニ關シテハ爲政者カ各國國情ニ依リ其ノ存在ヲ必要ト認メタル場合ニハ之ヲ一ノ事實トシテ取扱ヒ要スルニ各國現存公法ヲ尊重シ本約定ニ依テ何レノ主義制度ヲモ強制スヘカラスト爲ス說アリ(佛、瑞)

四、約定案ハ平和確立ノ爲國際聯盟教育及宣傳聯盟機關トノ連絡ニ重キヲ置キ居ル處非聯盟國ハ聯盟國ト立場ヲ異ニセルコト當然ナルカ蘇國委員ノ如キハ此ノ點ニ付留保ヲ宣言セリ

五、教育等ニ關シ中央集權ヲ行ハス中央機關ヲ有セサル國(殊ニ米、瑞西ノ如キ聯邦制國)ハ教育制度ヲ統一セル國ト事情ヲ異ニシ約定案ノ規定ニ對シ留保ヲ爲セリ

六、約定其ノ物ノ性質及形式ニ付異論アリ性質ニ關シテハ各國ヲ拘束スル嚴格ナル約定(單獨條約又「プロトコール」等ハ軍縮條約ノ一部)ニ同意スル國(佛等)及勸告又ハ希望宣言ニ止ムルヲ可トセル國(洪)トアリ

第三、教育問題

一、討議一般

教育問題ハ先議スルコトニ決定 (Conf. D./C.D.M./9 參照) シタルヲ以テ分科會議長ノ指名ニヨリ議長、波、英、白、洪、米、「ウルグアイ」、「ユーゴスラヴィア」ヨリ成ル小分科會ヲ設置シ英案(一)(a) 初等教育ニ關シ討議ノ基礎トナスヘキ案文ノ起草ヲナサシムルニ決セリ、右小分科會ハ五月六日、十八日、十九日及六月三日ノ四回ニ互リ會合シ國際學藝協力委員會提出案 (C.D.M./15) 之ニ對スル波蘭修正案 (C.D.M./17) 及前顯英、支、洪、「ウルグアイ」諸國案等ニ基キ一ノ案文 (C.D.M./18) ヲ起草シ六月三日第五回分科會會議ニ報告セリ

元來前記小分科會ノ任務ハ單ニ初等問題ニ關シ討議ノ基礎トスヘキ案文ヲ起草スルニアリタルカ右報告案ハ議題 (C.D.M./9) (一) 全部即教育、映畫、演劇放送ノ全般ニ互リ著ク其權限ヲ超越スルコトナリタルカ分科會ハ結局右案ヲ以テ討議ノ基礎トナスニ決シ六月三日、四日ノ兩日ニ互リ逐條審議ニ入ルコトナク本案全部ニ互ル一般討議ヲナセリ

精神的軍縮分科會ニ於ケル審議ノ結果カ將來如何ナル形式及效果ヲトルヘキヤノ法律的問題ニ關シテハ第四回會議(四月二十七日)ノ席上伊太利委員ヨリ質問アリ議長ヨリ右法律問題ハ最後ニ決定スルコトトスヘキ旨ヲ答ヘタルコトアリ本件報告案ニツキテモ法律的形式ノ問題ハ將來(一)新聞(二)法制問題ノ審議トモ關聯シテ政治委員會ニ於テ決定スルコトトシ今直ニ之ヲ論議スルハ尙早ナリトノ意見ナルヤニ認メラレタルカ (C.D.M./9 末段參照) 各國委員中ニハ本案カ(一)獨立條約(二)勸告(三)軍縮條約ノ一部其他如何ナル最後形式ヲトルヤヲ明ニスルニ非レハ其内容ニ付キテモ適確ナル意見ヲ表明シ得サルヲ以テ之ノ點ニツキ各國トモ本國政府ノ意嚮ヲ求ムルコトナレリ(英提案第七回會議) 依テ形式ノ問題ヲ留保シ七月十一日第八回會議ヨリ小分科會報告約定案ノ逐條審議ニ移レリ

二、小分科會報告約定案逐條審議

前文ハ各條内容ノ研究ノ後ニ之ヲ議スルコトトシ第一條ヨリ討議ヲ開始セリ

(一) 青少年教育

(a) 「プログラム」

第一條 各締約國領土内ノ教育ハ青少年ヲシテ他國民ニ對シ憎惡輕侮誤解ノ念ヲ發生涵養セシメサルノミナラス進テ各國民相互ノ理解及尊敬ヲ増進セシムヘキモタルヲ約ス (第八回會合七月十一日審議)

(イ) 米國委員ハ同國政府カ分科會ノ討議ヲ重要視シ參考トナスニ各ナラザルモ聯邦ノ教育ヲ統轄スル一ノ機關ナキコトニ注意ヲ喚起スル旨ノ同國內務大臣聲明ヲ朗讀シ佛國委員ハ右ト同様ノ狀況ニ在ル政府ノ立場ヲ考慮スル必要アリト述ヘ條文中右狀況ニ合スル規定ヲ設クルコトニ決ス

(ロ) 本條ノ積極的部分(國民間ノ理解尊敬増進)ニ重キヲ置キ之ヲ先ニ消極的部分ヲ後ニ記スヘキ提議(獨)アリ又後者ヲ全然削除スヘシトノ意見(瑞米英支葡)モアリタルカ報告者ハ消極的部分ノ必要ヲ説キ學藝協力部代表者ハ本條起草ノ際精神的軍縮ノ觀念ニ基キ反感ヲ除去シ次テ進テ平和及國民間ノ良好關係ノ促進ニ移ルノ順序ニ依レルコトヲ説明セリ結局ハ消極的部分ヲ主眼トシ消極的部分ヲ「メンション」スルニ止ルコトニ決セリ

(ハ) 蘇國委員ハ「他國民」ノ意義ニ付質問ヲナシ之ハ自國領土内ノ異民族即チ少數民族ヲモ含ムヤト質問シタルカ議長ハ聯盟法律部代表者「バランドン」氏ノ意見ヲ求メタルニ對シ同氏ハ目下研究中ノ如キ約定中ニ自國領土内ノ少數民族ヲモ含ム規定ヲ設クルコトハ不可能ナラサルモ茲ニ會合シ居ルモノハ政府ノ代表者ニシテ約定ノ當事者ハ國家ナルヲ以テ「他國民」ヲ「他國ノ人民」ト了解スルコト妥當ナリト説明シ少數民族ノ如キ畢意隣國ノ人民ナルヲ以テ「他國民」ノ語ニヨリ自動的ニ包含セラルヘシト附言セリ(蘇國委員ハ更ニ第九回會合(七月十二日)ノ際ニ「國境ノ内外ヲ問ハス本規定ヲ適用スル」趣旨ノ正式修正案ヲ提出シタルカ第一條ニ關スル議事終了セルヲ以テ第二讀會ニ於テ之ヲ研究スルコトニ同意セリ)

第二條 教育ハ常ニ各國間ニ學藝協力ヲ必要ナラシムヘキ相關々係ノ存在スルヲ明ニスルニ努ムヘシ

之カ爲メ文化的、經濟的、社會的、政治的關係ニ關スル觀念ヲ與フルヲ目的トスヘシ

右教育ハ出來得ル限り聯盟ノ成立ニヨリ生シタル新事態ヲ考慮シ聯盟ノ目的、手段、事業ヲ取扱フヘシ（第八回會議七月十一日）

（イ） 洪牙利委員ハ歴史ノ授業ハ自國本位ノミ行ハス常ニ一般世界史ト牽聯シ之ヲナシ國家ノ起源發達カ他國ト密接ナル關係ニ在ルコトヲ明ニスヘキ趣旨ノ規定ノ追加ヲ求メ可決セラレ

丁抹委員ハ地理ノ教授ニモ同様ノ主義ニ依ランコトヲ希望セリ

（ロ） 獨逸委員ハ本條ノ第二項ハ第一項ノ説明トモ云フヘク且餘リニ詳細ニ互ルヲ以テ之ヲ削除シ本條約實施ノ決議ノ形ニ改メンコトヲ求メ一同贊成ス

（ハ） 第九回會議（七月十二日）ニ於テ本條ニ關スル左ノ修正案提出セラレタルモ何レモ第二讀會ノ際之ヲ審議スルコトニ決セリ

（a） 中國提案 第二條第二項ニ左ノ趣旨ノ追加ヲナスコト

「殊ニ猶ホ國家間ノ鬭爭ノ原因トナリ居リ真正ナル國際融和並ニ世界平和ノ爲公正ナル解決ヲ必要トスル國際問題ノ研究」

（b） 西國提案 學校ニ於ケル軍事教育ノ問題ニ言及スヘシト主張シ「學校ニ於ケル體育ハ軍事豫備教育若ハ青年ノ軍事組織ノ性質ヲ有セシメサル」趣旨ノ規定ヲ追加スルコト

四月二十七日第四回分科會議ニ於ケル英國案（C.D.M.12）ノ討議アリタルカ同案末段青少年軍事教練ノ禁止案ニ付テハ伊國ヨリ強硬ナル反對アリ我方モ亦分科會ノ議事多岐ニ互リ過クルノ虞アルニ付之カ削除ニ贊シタルカ多數國ハ英案全部ニツキ審議スヘキコトヲ主張セリ

第二條追加規定西國提議ニ對シ伊國委員ハ本件ニ關聯シ技術上ノ困難ナル點（例ヘハ體操ト軍事教練ノ區別）アルモ要スルニ青年ニ銃ヲ持タシムルコト自體ヲ非トスルモノニ非スシテ排外的精神ヲ助長スルコトカ不可ナリ此

ノ精神ニ於テ西國提案ニ贊成スルモノナリト聲明セリ

（c） 獨逸提案

第二條第三項中「聯盟ノ成立」云々ヲ強メテ「聯盟ノ活動及効績」ニ改ムルコト

第三條 高等教育ニアリテハ職業教育ニ關聯シテ國際關係ノ研究ヲナシ又必要ニ應シテ特別講座又ハ機關ヲ設置スヘシ（第九回會議七月十二日）

（イ） 本條ハ教員學生雙方ヨリ學藝協力組織ニ對シ表明セラレタル現在國際關係ノ講座又ハ研究所設置ノ希望ニ應シ設ケラレタルモノナルカ獨逸委員ハ本規定ハ財政上ノ義務ヲ負ハシムルモノナルニ付キ之ニ反對シ其ノ削除ヲ求メタル處右義務ヲ負ハシメサル形式ニテ之ヲ存スルコトニ決セリ又「職業教育」ノ字曖昧ナルヲ以テ是ヲ訂正スルコトニ決セリ

（ロ） 佛委員ハ「科學ノ進歩」ノ字ノ挿入ヲ求メタリ

第四條 外國語並外國文學ノ研究ハ國民ノ接近ニ必要ニシテ之ヲ重要視スヘク學力ノ程度ニ應シ出來得ル限り外國教授若クハ講師ニ依リ之ヲ行ハシムヘシ（同上）

（イ） 本條ヲ審議スルニ當リ議長ハ本約定ハ精神的軍縮ヲ主眼トスヘキヤ將又學藝協力事業ニ迄立入ルヘキヤノ主義上ノ疑問ヲ起シタル處佛國委員ハ兩者ハ不離ノ關係ニアリト主張セリ

（ロ） 獨逸委員ハ外國人教員ノ使用ヲ強制スルコトニ反對シ此ノ點ハ一般ニ是認セラレタリ

（ハ） 教員交換問題ハ第十一條ニ規定セラレ居ルヲ以テ本條ニハ之ニ言及セサルコトニ決セリ

第五條 教員養成ニ當リテハ本案第一、二條條規定ノ原則ニ留意シ又右原則ノ實施カ教員ニ由ルトコロ大ナルヲ考慮スヘシ（同上）

（イ） 瑞、日委員ハ第一條第二條ハ己ニ根本方針ヲ定メ居ルニ付第五條ハ不要ニシテ其ノ削除ヲ求メタリ

(ロ) 英國委員ハ分科會ハ重要問題(青少年ノ軍事教練等)ヲ後廻シニシ細點ノ論議ニ時ヲ費シ居ルヲ雖シ第三條乃至第七條ヲ一ケ條ニ纏メンコトヲ提議セリ結局第三條第四條ヲ存シ第五條乃至第七條ヲ起草小分科會ニ回附スルコトニ決セリ

第六條 各國教育情報中心機關 (National Educational Information centre; centres nationaux de Documentation Pédagogique) ハ各種教育制度ヲ比較研究シ特ニ聯盟ニ關スル教育ヲ研究スヘシ (第十回會合七月十三日)

瑞米委員ハ自國ニハスル中心機關ナキヲ以テ本條ヲ適用シ得スト述ヘ蘇國委員ハ聯盟教育及宣傳ニ關スル從來ノ留保ヲ繰返ヘセリ

第七條 青少年及成人ニ對スル各種研究科職業教育、大學及公衆教育ハ同様ノ趣旨ニヨルヲ要ス (同上)
討論ナク通過

教科書及出版物

第八條 第一條及第二條ノ目的ニ資スヘキ出版物ノ播布ヲ獎勵スル爲教材及教科書ノ選擇ニ特別ノ注意ヲナスヲ要ス
教材及教科書ハ各國民ノ相互理解及良好關係ヲ損スルカ如キ字句ヲ含ムヘカラススル字句ヲ含ム教科書ハ改訂ヲ要ス
公共及學校ノ圖書館ヲ援助シ國際的理解ヲ増進スヘキ作品及出版物ノ傳播ニ貢獻セシムヘシ (同上)

本條ノ積極的方面ノミヲ存シ消極的部分ヲ出來得ル限り之ヲ削除セントスルノ說アリ (瑞西、佛、獨、支) 之ニ對シ「ボネ」國際學院學藝協力學院々長ハ國際感情ヲ害スル字句ノ除去ハ是非共必要ナルヲ以テ消極的部分モ存スル要アリト說キ我委員モ之ト同意見ヲ述ヘ且第三項ヲ不充分トシ不良ナル書物ノ播布ヲ阻止スルコトモ必要ナリト主張セリ
積極的方面ヲ一層強ムル說モアリ佛國委員ハ左ノ二提案ヲナセリ

(a) 第一項修正案國內及國際の教科書 (即チ聯盟協會ノ如キ團體ノ贊助ヲ得タルモノ又ハ外國教科書ヲ「アダプト」シタルモノ) ノ使用ヲ促進スルコト

(b) 第二項修正案國際關係ニ關スル教科書中ニ事實ノ解釋ニ關スル反對主張ヲ客觀的ニ適當ニ記述スルコト (獨逸モ同趣旨ノ提案ヲナセリ) 右ハ何レモ主義上受諾セラレタリ

第三項ノ「援助」ハ金錢の補助ノ義務ヲ負ハシムルモノナラハ之ヲ受諾シ得サル旨ノ言明 (英米) アリ又或國ニ於テハ政府ハ教科書ヲ強制シ得サルコト (丁抹) ノ主張アルヲ以テ此等ノ點ヲモ考慮ニ入レ起草ヲ研究スルコトトナレリ

尙一般討議ノ際 (第六回會議) 中國委員ハ本條中ニ中國提案 (C.D.M/16) ノ趣旨現ハレ居ラス國際紛争ノ眞因ヲ除去セスシテ國民的惡感ヲ除去スルコト不可能ナリト述ヘタリ

交換及旅行

第九條 學生ニ大ナル便宜ヲ與ヘ個人又ハ團體ノ外國旅行及滞在ヲ獎勵スヘク交換モ獎勵スヘシ之カ爲メ各國政府ハ旅行獎學金貸與資金等ノ許與ニ關シテ他國政府ト協定ヲ結ビ又ハ目的ノ爲ニスル私的協定ノ締結ヲ援助スヘシ (同上)

本條ノ趣旨ニ對シ異存ナク只一層一般的ノ勸告性ヲ帶ハシムルコト (獨) 及一二ノ起草上ノ注意アリタルニ過キス

第十條 高等教育ニ在學ノ外國學生ハ自國民ト同一待遇ヲ受クヘク場合ニ依リテハ右ハ相互主義ニ依ルヘシ

外國學生高等教育ニ入學又大學々位ノ同等 (equivalence) ニ關シ出來得ル限り多數ノ特別協定ヲ結フヘシ (同上)

(一) 平等待遇ノ原則ハ一般ニ受諾セラレタルモ佛國委員ハ外國人學生多數集リ來ル國ニハ其ノ實施ニ關シ多大ノ困難ヲ感シ居ルヲ以テ絶體平等待遇ノ義務ハ之ヲ受諾シ得サルヲ以テ第一項ヲ削除シ第二項ヲ改良セント提議シ更ニ米國委員ハ equivalence ノ問題ハ非常ニ困難ナルコトニ注意ヲ喚起シ第二項ノ起草ニ充分ノ注意ヲ拂ハレ度シト述ヘタリ獨逸委員ハ第二項ハ之ヲ全ク削除スヘシト主張セルニ反シ平等ノ原則 equivalence ノ認容ハ重要ナルヲ以テ削除ニ反スルモノ (蘇、西) アリタルカ結局各委員ノ發言ヲ考慮シ本條ノ起草ヲ改メ殊ニ平等待遇ノ適用事項ヲ明示スルコト (葡主張) ニ決セリ

第十一條 特別協定ニヨリ各國間教授交換ヲ一般のナラシムル手段ヲ講スヘク又外國派遣ノ教授ニ對シ先任順及昇進ノ保障ヲ與フヘシ（第十一回會議七月十四日）

本條ハ主義トシテ採擇セラレタルモ瑞西委員ノ如キハ過去ノ經驗ニ照ラシ教員交換ノ急激速進ニ付疑問ヲ抱ケルコトヲ述ヘ又本件ヲ政府ニ強制スルコトニ反對スル旨ノ言明（獨、伊、英）アリタリ
尙「交換」ハ暫定的及相當長期間ノ兩者ヲ含ム意ナルコト確定セリ

智的階級ノ協力

條十二條 各國政府ハ最適切ナル手段ニヨリ各國智的階級カ精神的融和ニ關スル聯盟事業ト協力スルヲ容易ナラシムヘキヲ約ス

就中各國政府ハ自國民ヲ學藝協力團體ノ事業ニ貢獻シ又相違セル見解ノ討論ニ於テ廣大ナル寬恕ヲ持スルコトハ眞ノ了解ヲ招致スル唯一ノ途ナルニ依リ自國民ヲシテ斯ル智的交換ニ貢獻スルヲ獎勵スヘシ又各種文化ノ融合ヲ示スヘキ國際的表現ヲ獎勵スヘシ（第十三回會議七月十六日）

一般討論ノ際已ニ羅、「ユーゴスラヴィア」葡及日本委員ハ本條第二項中ノ相異レル意見ノ討論ヲ以テ國民了解ノ唯一ノ方法ナル意味ノ規定ニ對シ留保ヲナシタルカ逐條審議ニ當リ羅國委員ハ更ニ本條ノ起草ニ反對シ（現在起草ハ洪牙利委員ノ提案ニ基キ修正セラレタルモノナリ）本條ハ現在ノ儘ニテハ政治的論爭ヲ促進スルヲ以テナリト説明セルニ對シ洪國委員ハ「各國政府ハ其ノ臣民ニ對シ相反スル政治的見解論議ノ際廣大ナル相互的寬恕ヲ念トスヘキコトヲ勸告」スル趣旨ニ改メテモ可ナリト提議セリ協力部長ハ本條第二項ハ特ニ學術哲學等ニ關スル會議ニ於ケル論議ヲ主眼トセル旨説明セリ

獨、瑞ヨリ文面ヲ簡略ニスヘキ主張アリ本條ハ起草小分科會ニ廻送セラレタリ

第十三條

各國政府ハ國際的了解ヲ害スルカ如キ劇ノ上演ヲ禁止シ又理解ヲ増進シ他國民ノ國民性ヲ認メシムヘキ劇ノ上演ヲ獎勵スヘシ（第十二回會議七月十五日）

多數ノ委員ハ劇ノ豫防檢閲ニ對シ反對意見ヲ有スルヲ以テ本條ノ消極的部分ノ削除ヲ主張スル者多ク（西、英、米、瑞、獨）之ニ對シ葡委員ハ豫防檢閲ソノモノニハ反對ナルモ政府ニ平和ヲ侵害スル劇等ノ取締ヲ爲シ得ル何等カノ方法ヲ與フル事必要ナリトシ伊委員ハ第一項ノ主義ハ之ヲ存スヘシト主張セルモ票決ノ結果六對三ニテ第一項ノ削除ニ決セリ

報告者ハ第一項ヲ復活セシメ「自國公法尊重ト兩立スル程度ニ於テ」ヲ附加セント提案（佛協力部賛成）セル處其ノ審議ヲ第二讀會ニ委ネ本條後半ハ起草委員ニ回附セラレ

第十四條 各國政府ハ適當ナル方面ノ意見ヲ徵シタル上人類ノ共有物ト認ムヘキ作品ニ關スル知識ヲ播布スヘキ作品及出版物ノ翻譯ヲ一切ノ方法ニ依リ之ヲ獎勵スルコトヲ約ス（同上）

西國委員ノ提議ニヨリ「適當ナル方面ノ意見ヲ徵シタル上」ヲ削除ス

第十五條 各國政府ハ國內法制又ハ現存國際協定ノ改善ニヨリ智的財產權保護増進ニ努ムヘシ（同上）

本條約ノ目的トスル所ノ範圍ヲ超ユルモノシテ削除

第十六條 各國ニ於テ精神的軍縮ニ直接貢獻スル機關ノ活動ヲ容易ナラシムヘク之カ爲メ必要ナル法律的保障ヲ與フヘシ（同上）

本條ノ定ムル「國際團體ノ活動ヲ容易ナラシムル」コト及「法律上ノ保障」ノ意義不明ナリトテ説明ヲ求ムルモノアリ（瑞、獨）獨逸委員ハ之ヲ外交特權ノ許與ヲ意味スルナラハ反對セサルヲ得ス又法人格附與等私法上ノ保障ヲ與フル意ナラハ是亦國內法ノ規定ニ據ラサルヘカラスト述ヘ本條ノ削除ヲ求メタルカ討論ノ末本條ノ趣旨ハ國際團體ニ特權ヲ與フルニ非サルコト他ノ團體ニ比シ不利益ナル立場ニ置カシメサルコト或程度ニ於テ其ノ活動ヲ容易ナラシムル

コトニ在ルニ意見一致シタルカ數名ノ委員ヨリ修正案アリ(英、米共同起草案葡國ノ許與スヘキ權利ノ明示ニ關スル提案等)旁本規定ノ内容ノ問題ハ重要ナル問題ニシテ法律的研究ヲ要スルヲ以テ一旦法律小分科會ニ回附セラレタリ

其ノ結果起草セラレタル新案ハ第十四回會議ニ於テ審議セラレ左ノ通り決定セリ

「各國政府ハ精神の軍縮ニ直接貢獻スル國際團體ノ活動ヲ自國領土内ニ於テ許可シ且ツ容易ナラシムルコト就中右活動ニ必要ナル法律能力ヲ保有セシムル用意アルコトヲ聲明ス但シ右ハ公ノ秩序ノ必要ナル制限ヲ妨クルモノニ非ス」

白國ノ委員ハ本條ニ依リ各國政府ハ國際團體ノ活動ヲ禁止セサル義務ヲ負フニ非レハ空文ニ過キストシテ之ニ對シ留保ヲ爲スヘシト述ヘタルモ分科會ノ多數ハ本條ノ規定ハ各國々内法ノ範圍内ニ適用セラルヘク各國公法ヲ尊重スル主義ヲ確認シタリ

第十七條 各國政府ハ國內學藝協力委員會ノ發達又ハ正式設立ニ努メ之ニ精神の並物質の便宜ヲ供與スヘク且國際的學藝協力ニ關シテトルヘキ國內的手段ニツキ之カ意見ヲ徵ス(第十二回會合七月十五日)

學藝協力部長ハ各國學藝協力委員會ノ法律的存在ハ一九三一年ノ聯盟總會ノ決議ニ依リ認メラレタルコトヲ説明セルカ「ユーゴースラヴィア」委員ハ本條ハ國內委員會ノ設立義務ヲ負ハシムルモノナラハ之ヲ受諾シ得スト述ヘタリ此ノ點ヲ考慮シ且「精神の及物質の」ノ字ヲ削除セリ

三、情報傳播ノ技術的手段ノ使用

(a) 放 送

第十八條 各國政府ハ特別規定ニヨリ國際關係ヲ害シ又ハ他國民ノ正當ナル感情ヲ害スルカ如キ報道又ハ言辭ノ放送ヲ防止ヘシ(第十三回會合七月十六日)

第十九條 各國政府ハ其法規ニ從ヒ國際的の了解ノ増進就中聯盟事業ニ關スル知識ノ傳播ニ資スヘキ講演講義及朗讀ノ放送ヲ獎勵スヘシ

放送番組ハ成ルヘク各國特殊ノ技能(詩、音樂、劇、民謠)ニ關スル知識ヲ増進スヘキ情報ヲ含ムヘク教育放送ニ付テハ特ニ各國民相互理解ニ資スヘキ作品ニ留意スヘシ

右兩條ハ同時ニ審議セラル

International Broadcasting Unionノ代表者ハ國際放送ハ未タ發達ノ階梯ニ在リ餘リ嚴格ナル制限ヲ設ケサラン希望ヲ述ヘ且宣傳ニ關シテハ各會社間ニ紳士協約アリ相手國聽取者ノ信念感情ヲ害スル放送ヲナササルコトヲ約シ居ルコトヲ説明セリ

第十八條ニ付テハ其ノ削除ヲ求ムル者(西)アリタルカ討論ノ結果之ヲ存シ英國委員ノ提出セル案ヲ考慮シ緩和シタル形ニ改ムルコトニ決セリ

波蘭委員ハ獨波「ラデオ」協定ノ數ヶ條ヲ讀ミ上ケ本條中ニモ同趣旨ノ規定(特ニ相互的宣傳虛報流布禁止殊ニ相手國々語ニテ爲ス放送ニ關シ此ノ點ニ注意スルコト等)ヲ設ケンコトヲ提議セリ

第十九條ニ關シテハ瑞西委員ハ「ラデオ」ハ極メテ國際化シ居リ容易ニ本場ノ放送ヲ聽取シ得ルニ鑑ミ番組ニ關スル規定ヲ無用トセリ

尙第十八條第十九條ヲ一ヶ條ニ纏ムルコトニ決セリ

第二十條乃至第二十三條ハ同時ニ審議セラレタリ(同上)

(b) 映 畫

第二十條 各國政府ハ映畫取締リニ關スル國內法規ニ從ヒ國際的の了解ニ有害ナル感情ヲ激發スルカ如キ「フィルム」ノ映畫ヲ防止スヘキヲ約ス

各國政府ハ斯ル豫防手段ヲ容易ナラシムヘキ檢閲又ハ監督規則一般的ナラシムル目的ヲ以テ協定ヲ結ブノ用意アルコトヲ聲明ス

消極的部分削除ノ提案アリタルモ票決ノ結果之ヲ存セリ但シ「檢閲」ヲ削除ス

第二十一條 各國政府ハ出來得ル限り教育當局ヲシテ聯盟ニ關スル教育「フィルム」及他國民ニ關スル知識増進ヲ目的トスル「フィルム」ヲ入手セシムル爲便宜ヲ供與スヘシ

入手ノ前ニ「交換」ヲ挿入スルコトセリ

第二十三條 各國政府ハ出來得ル限り教育「フィルム」ノ各國間流通ヲ容易ナラシムヘキヲ約ス

主シテ關稅規定ナルヲ以テ削除説アリ又佛國代表ハ「流通」ノ前ニ「入國」ヲ挿入セント提議セリ

第二十三條 各國政府ハ聯盟ノ活動ニ關スル「フィルム」ノ映寫ニ對シテ優遇ヲ與フルノ可能性ヲ審査スヘキヲ約ス

「優遇」ノ前ニ「租稅上其ノ他ノ」(financial et autre)ヲ挿入

尙ホ第二十條第二十三條ヲ一ケ條ニ纏ムルコトニ決セリ

手 續(第十五回會議七月二十日)

第二十四條 第一案(波蘭提出「ユーゴースラヴィア」「ウルグアイ」支持)各國政府ハ毎年(或ハ何年毎ニ)本案ニヨリ生スル義務ニ付キ探ラレタル手段ニ關シ聯盟理事會ニ報告スヘシ

國際學藝協力委員會ハ右報告ヲ受理シ專門機關ノ助力ニヨリ之ニ對スル意見ヲ作製ス理事會ハ之ヲ審議スヘシ

事務總長ハ右報告及「オブザベーション」ヲ公表スヘシ

第二案(白、洪、米提出)

各國政府ハ本案ニヨリ生シタル義務ニ付キトラレタル手段ニ關シ各國學藝協力委員會ヲシテ毎年(或ハ何年毎ニ)國際學藝協力委員會ニ報告セシム

(以下第一案ト同趣旨)

第三案(洪支持)、
瑞、佛、獨、葡委員ハ第一案英、米、支、洪委員ハ第二案ヲ支持スル旨明言シ意見ノ一致ヲ見ル能ハサリシヲ以テ起草委員會ニ兩者ヲ包括スル新條ノ起草ヲ依頼セリ

報告ハ理事會ニ提出スヘキヤ總會ニ提出スヘキヤニ付テモ異論アリタリ

第二十五條 各國政府ハ本案規定實現ノ目的ヲ以テ其官憲ヲシテ出來得ル限り國際學藝協力委員會ト協力セシムル爲メ出來得ル限りノ便宜ヲ供與スヘシ

右協力ハ特ニ右委員會事業ニ關聯セル文書及右事業ニ干與スヘキ専門家ノ任命アルモノトス(同上)

本條ノ趣旨ハ第十七條ニ合マレ居レルヲ以テ之ヲ削除スヘシトノ主張アリ(獨、瑞、洪)之ニ對シ「モンテナク」部長ハ第十七條ハ國內委員會ヲ目標トシ本條ハ協力組織全體ヲ指スコトヲ指摘セルカ結局佛、葡ノ提議ニ依リ起草委員會ヲシテ右兩條ヲ合シ新案ヲ作ラシムルコトニ決セリ、瑞國委員ハ第二項ノ削除ヲ求メタリ

第二十六條

第一案

各國政府ハ本案規定ノ原則實施ニ影響ヲ及ホスヘキ性質ノ事項ニツキ注意ヲ喚起スルノ目的ヲ以テ他國政府ノ採リタル手段ニ對シ好意的考慮ヲ加フヘキヲ約ス

第二案

各國學藝協力委員會ハ本案規定ノ原則實施ニ影響ヲ及ホスヘキ事態ニツキ國際學藝協力委員會ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

國際學藝協力委員會ハ本條ニヨル各國委員會ノ通告ヲ受領シ專門委員ヲシテ關係情報ヲ蒐集セシム

本案規定ノ原則適用ニ影響ヲ及ホスカ如キ事項ヲ生シタル場合ニハ各國學藝協力委員會ハ該事項ニ關シ當該國學藝協力委員會ト交渉スルヲ得之ニヨリ合意ニ達スルヲ得ナル場合ニ於テハ國際學藝協力委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ得本手續ハ特殊事項ニ關シ既ニ特別協定又ハ聯盟總會ノ決議(例ヘハ教科書改正ニ關シ既ニ採擇セラレタル規則)ニヨリ決定セル規則ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

第二十四條未決ニ付本條ノ審議ヲ第二讀會ニ延期セリ

追加規定(同上)

第一案

各國政府ハ軍縮條約實施ニヨリテ實現ナルヘキ節約額二千分ノ、、、ヲ本案規定ノ精神的軍縮事業ニ充當スヘキヲ約ス

右金額ハ(追テ定ムヘキ比率ニヨリ)精神的軍縮ニ協力セル聯盟機關並國內機關ニ配布サルモノトス

第二案

各國政府ハ軍縮會議ノ結果縮少セラレタル軍備豫算總額千分ノ、、、ヲ本案規定ノ精神的軍縮事業ニ充當スヘキヲ約ス

(以下同上)

英、米、洪、瑞、日委員ハ相次テ提出セラレタル何レノ案ニモ同意シ得サルヲ言明シ佛委員モ如斯規定ハ受諾出來サルモ學藝協力組織補助ノ道德的標準トスルコトハ可ナルヘシト述ヘ(伊、「ユーゴ」賛成)本條ノ規定ノ範圍、設定スル義務等不明ニシテ審議シ難キヲ以テ起草委員會ニ回送シ第二讀會ニ際シ審議ヲナスコトニ決セリ

(前文)

國際協力ヲ増進シ世界平和ヲ確保スルハ聯盟規約ニヨリ締約國ノ負擔セル義務ナルヲ認メ

一九二八年八月二十七日巴里ニ締結セラレタル條約署名國カ同様ノ義務ヲ負ヘルコトヲ認メ

精神的軍縮ハ一般軍縮事業ノ一要點ニシテ軍縮ノ進歩ハ之ト並行セル精神的軍縮上ノ努力ヲ伴フヘキヲ認メ

國際的理解ハ單ニ政府ノ善意ノミニ依ルニ非スシテ各國民ノ智の精神的提携並思想ノ國際的傳播ニ資スヘキ各種技術的手段ノ使用ヲ豫想シタルヲ考慮シ

學藝協力ニ關シテ既ニ若干國ニ於テ得タル部分の結果ニ依レハ今後秩序のニ各國文化ノ漸進的融合ヲ圖ルニ於テハ他國民ニ對スル無知識ヨリ生スル誤解ヲ一掃シ得ルノ希望ヲ懷カシムルモノアルヲ考慮シ或國カ精神的軍縮ノ爲ニトルヘキ手段ノ成否ハ主トシテ他國モ亦同様ノ手段ヲ實施スルヤ否ヤニカカルモノナルヲ考慮シ

一九三一年九月ノ聯盟總會ニヨリ設置セラレタル學藝協力團體(Intellectual Co-Operation organization)ハ精神的軍縮ニ適切ナル機關ニシテ右團體ノ事業就中左記事項ニツキ之ヲ援助スルノ頗ル望マシキヲ認メ

各締約國ハ出來得ル限り次ニ掲クル原則ヲ實施スヘキヲ約ス

「前文」ノ趣旨ニ異議ナク只文句ヲ一層簡明ニセンコト(佛、英、米)政治的觀念ヲ可及のニ之ヲ除クコト(獨)ノ希望表明セラレタリ

前約定案全文ハ起草委員ニ附託セラレタリ

三、英米宣言案(第十四回會合七月十九日)

英、米委員ハ政治委員會カ何等具體的結果ニ到達セスシテ會議ノ休會スルヲ遺憾トシ精神的軍縮ノ原則及實施方法ヲ簡單ニ規定セル宣言案(各國代表ノ署名スヘキ「プロトコール」ノ形式)(C.D.M./23)ヲ第十四回會議ニ提出シ速ニ之ヲ議決センコトヲ求メタルモ恰モ約定案逐條審議ノ際ノミナラス提案者ニ於テ之ト並行シテ宣言案ノ研究ヲ行フニ反對セルヲ以テ逐條審議ヲ繼續シ英米案ヲ別個ノ文書トシテ會議再開前約定案ノ新起草ヲナスヘキ小分科會ニ其ノ研究ヲ委ネ約定

案第二讀會ニ際シ之ヲモ審議スルコトニ決セリ

四、議長ハ第十五回會合(七月二十日)ニ於テ會議休會中法律小分科會ヲシテ(イ)約定ノ形式選定(ロ)右形式及分科會討議ニ基キ約定案ノ新起草ヲ行ハシメントテ提議シタルカ日本委員ハ形式ノ問題ハ重要問題ニシテ分科會再開ノトキ之ヲ討議スルノ自由ハ完全ニ留保セララルモノト了解スト述ヘ置キタリ

上記小分科會ハ瑞(議長)波(報告者)獨、西、佛、伊、蘭、羅、英委員外蘇國側ノ希望ニ依リ同國委員ヲモ加ヘ十名トシ定期聯盟總會開催中頃ヨリ事務ヲ開始スルニ決セリ

第四、新聞問題

一、沿革

(一) 平和確立ニ對スル新聞ノ協力ニ付テハ昭和六年九月第十二回聯盟總會ニ於テ西國代表「ルルー」外相ヨリ提案アリ(平和ノ組織ニ對スル婦人及新聞ノ協力ニ關スル提案(A. 48/1931)「ウルグアイ」國支持)第三委員會ニ於ケル審議ノ結果總會ハ同年九月二十四日本件ニ關スル決議ヲナシ理事會ニ對シ「新聞ト協力シ平和ノ維持及國民間ノ好情ヲ阻害スル虛報ノ流布ヲ阻止スル方法ノ研究」ヲ依頼セリ

理事會(第六十五回理事會九月二十九日會議)ハ右決議ニ基キ「丁抹國カ來冬「コペンハゲン」ニ於テ各國政府新聞係ノ會議ヲ招集シタルコトヲ是認シ此ノ機會ニ際シ虛報流布問題ニ付意見ノ交換ヲ爲シ得ルコトヲ喜フ」ト同時ニ「本件ニ付キ一九二七年ノ新聞會議準備ノ際己ニ連絡ヲ取リタル新聞團體ト協議ヲナシ且利害ヲ有スト認ムル新聞組織ノ提示スル意見ヲ受理スルコトヲ聯盟事務總長ニ依頼」セリ

(二) 前記各國政府情報部會議ハ一九三二年一月十一日ヨリ十四日迄「コペンハゲン」ニ開カレ四十五國及主要通信社並ニ新聞團體ノ參加ヲ見タリ其ノ結果虛報誤報播布ニ關スル決議(政府情報部長新聞代表者及新聞記者團體ノ三決議ヲ含ム)及主トシテ技術的問題ニ關スル二個ノ決議ヲナシタリ同決議ハ一月十九日ヲ以テ丁抹代表者ニ依リ聯盟ニ傳達セラ

レタリ(理事會書類 C. 96. 1932)

二、精神的軍縮分科會ニ於ケル新聞問題

新聞ノ問題ハ精神的軍縮分科會ニ於テ取扱ハルルコトナク(C.D.M. 9)之ヲ研究スヘキ小分科會(瑞(議長)波(報告者)白、丁、「ユーゴスラヴィア」設置セラレタルカ(第六回會議)同小分科會ハ昭和七年六月二十九日第一回會議ヲ開キ波蘭委員ノ提出セル新聞會議召集案(C.D.M./21)ヲ研究セリ

同案ハ大體波蘭ノ新聞ニ關スル提案(C.P./2)ト同趣旨ナルモ會議討議事項トシテ

a. 記事訂正權

b. 國際關係ヲ害スル過激ナル言動ヲ攻撃スル自由約束
ノ諸點ヲ含ム新聞團體ノ協約ヲ舉ケ居レリ

聯盟情報部長コメール氏ハ右會議ノ召集ニハ種々ノ豫備的問題アリ新聞團體ト連絡ヲ取ルコトヲ要スヘク又提案ノ内一九二七年ノ新聞會議ニヨリ聯盟ヲシテ研究セシムルコトニナリタルモノアリ且右會議召集ニハ相當ノ時日ヲ要スヘキコトヲ指摘セリ

依テ波、白代表及「コメール」氏ヲシテ聯盟附新聞團體ト意見ヲ交換シ充分連絡ヲ取ラシメタル上ニテ小分科會ヲ再開スルニ決セリ

第五、法制問題

波蘭諸提案及覺書ニ於テ各國法ヲ國際生活發展ノ現勢ニ順應セシムルコトノ研究ノ必要力説セラレ右ノ研究ハ各國民間ノ善隣關係ニ反シ世界平和ノ爲ニ危險ナル各種行爲ヲ定義スルヲ目的トスト述ヘ居リ本問題ハ精神的軍縮分科會ノ審議事項トナリタルカ分科會第二回會合(三月十六日)ニ於テ羅國委員「ベラ」氏ヲシテ本件ニ關スル覺書ヲ提出セシムルコトトナリタリ「ベラ」氏ハ第七回會議(六月二十七日)ニ右覺書ヲ提出シ之ヲ討議ノ資料トシテ取扱フコトニ決セリ

尙法制問題ヲ審議スル小分科會ハ第六回會議（六月四日）ニ依リ設置セラレタルモ〔瑞（議長）波（報告者）羅、伊、葡〕前日約定案第十六條再起草ヲ審議シタル外會合セス

第六、精神的軍縮分科會報告書提出

分科會第十四回會合（七月十九日）ニ於テ日本委員ハ軍縮會議第一期ノ結果ヲ取纏メタル所謂「ベネシユ」決議案ハ精神的軍縮ニ言及シ居ラサルヲ指摘シ委員會ニ於テ右挿入ヲ必要ト認ムルニ於テハ議長ニ於テ本分科會ノ事務ノ報告ヲ作成シ「ベネシユ」氏ニ對シ決議案ニ包含方交渉セシメントヲ提議セル處多數ノ同意アリタルカ本件ニ關シ軍縮部長「アグニデス」氏ノ意見ヲ求メタル處同部長ハ「ベネシユ」案ハ元來軍縮會議ノ事業ヲ促進スル目的ヲ以テ私的會談ヲ行ヒ各代表部ノ同意スル點ヲ明ニセント努メタル結果ヲ纏メタルモノニシテ會議ノ事業報告ノ性質ヲ有セサルヲ以テ本分科會成績ノ報告ヲ之ニ加ヘサルコトノ妥當ナリト述ヘタリ

依テ分科會議長ニ於テ報告書ヲ作成シ之ヲ政治委員會議長ニ提出スベシト述ブ蘇國委員ハ蘇國力第一讀會ヲ了シタル約定案ニ對シ根本ノ主義ヲ全ク異ニセルコト聯盟ノ事業、主義等ノ宣傳及國際學藝協力委員會トノ連絡ニ付キ約束ヲ爲シ得サルコトヲ繰返シ只々國民ノ接近ヲ促進スヘキ各方面ノ實際的措置ニ協力スルニ各ナラサル趣旨ノ宣言ヲ讀ミ上ケ之ヲ報告書ニ添付センコトヲ求メタルモ結局議事録中ニ其ノ全文ヲ掲載スルコトニ同意セリ

本分科會報告書ハ七月二十五日「ヘンダーソン」議長ニ提出セラレタリ (Conf. D/138)

第二編 各 論

第二章 陸軍問題